

『平成28年度 第3回市町村議会議員特別セミナー』

研修報告書

研修日時 平成28年11月21日～11月22日

場所 全国市町村国際文化研修所（JIAM）

主 催 財団法人 全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所

報告者 高瀬 洋

講義内容

11月21日（月）

13時15分～14時45分

「メディアからみた地方分権」

日本経済新聞社 編集委員兼論説委員 谷 隆徳 氏

- ・分権改革の始まりは
- ・分権の歴史を振り返る
- ・宙に浮いた道州制
- ・改革の現状
- ・地方分権の「メディア露出度」
- ・これからの道は？

15時00分～16時30分

「選択と集中、分担と連携をコンセプトとした自治体運営
～個々の自治体の特徴を活かした広域水平連携への挑戦～」

京都府舞鶴市長 多々見 良三 氏

- ・はじめに～「選択と集中、分担と連携」の原点～
- ・地域医療の再生実現から、広域連携の充実・強化へ
- ・なぜ広域連携が可能か
- ・京都府北部地域連携都市圏の強み
- ・京都府北部地域連携都市圏の目指す姿
- ・京都府北部地域連携都市圏の重要性

11月22日（火）

9時00分～10時30分

「変化する政治・経済の中の自治体経営」

元東京大学学長 佐々木 毅 氏

- ・相次ぐ政治の大変動
- ・迫り来る第四次産業革命
- ・経済構造の変化
- ・定住自立圏の経験から

10時45分～12時15分

「地方行政を考える～人口問題を中心に～」

前・内閣官房まち・ひと・しごと創生総括官 山崎 史郎 氏

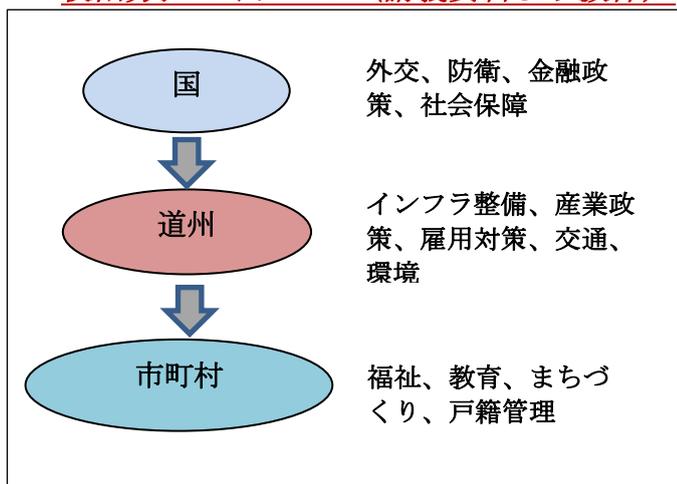
- ・人口減少をめぐる状況
- ・地方創生の「基本戦略」

『平成28年度 第3回市町村議会議員特別セミナー』を受講した所感 高瀬 洋

今回の市町村議会議員特別セミナーでは、地方分権や地方創生に関連した4名の著名な講師の講義があり受講した。

まず「メディアからみた地方分権」では、講師の谷先生から受講者に「あなたは、地方分権改革をもっと進めるべきか、現状でとりあえずいいと考えるかどちらですか？」という質問があった。受講者の約7～8割は進めるべき、残りが現状維持に手を挙げた。進めるべきと答えた受講者は責任と権限、予算も込みで自分たちの地域づくりに取り組めるので、メリットが大きいという考えであり、私を含む現状維持と答えた受講者のその理由は、権限が増大すると当然仕事の量も質も増大するが、人口が多くない地方の自治体では、その変化を吸収できるだけの人員が確保できず、住民サービスが低下する可能性がある。また、税収が少なく地方交付税への依存度が高い自治体では、地方分権が進み従来以上に地方の自立性が求められると、財務状況が更に悪化し、自治体間の格差が広がるのではないかという懸念があるので、もっと検討が必要という意見である。

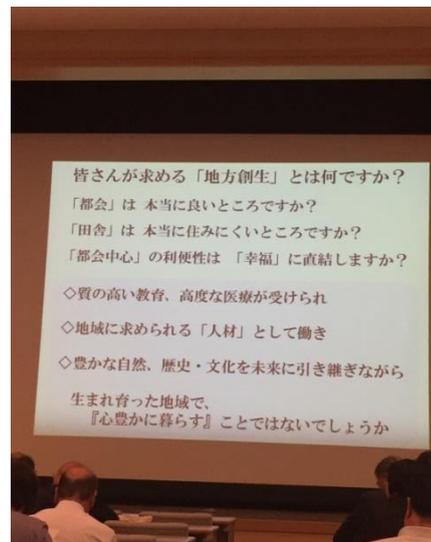
役割分担のイメージ (講義資料より抜粋)



道州制による、国、道州、市町村の役割分担のイメージは概ね左図の通りであり、外交や防衛等の国全体としての政策が必要な機能は中央に残るがそれ以外の機能は道州に移管される。しかし、これを見る限りでは、市町村は、従来と変わらないように思われる。講義でも説明があったが、道州制といってもイメージは様々であるようだ。そこで、冒頭の講師の質問にも戻るが、地方分権が進んだ場合、西脇などの小規模で財政力指数もさほど高くない自治体にはどのような影響があるのか、予想される具体的な変化を研究する必要がある。

次に、舞鶴市の多々見市長が講義された「選択と集中、分担と連携をコンセプトとした自治体運営」の中で思ったことに触れてみたい。市長は医師であり、元舞鶴共済病院の院長であったが、市内にある4つの大きな病院の統廃合への手腕を期待され市長となられたそう。講義は、地域医療に関することが多くをしめたが、講義最後の写真の言葉が印象に残った。見にくいので以下の囲みに転記した。

皆さんが求める、「地方創生」とは何ですか？
 「都会」は、本当に良いところですか？
 「田舎」は、本当に住みにくいところですか？
 「都会中心」の利便性は、「幸福」に直結しますか？
 ◇質の高い教育、高度な医療が受けられ
 ◇地域に求められる「人材」として働き
 ◇豊かな自然、歴史・文化を未来に引き継ぎながら生まれ育った地域で、
 『心豊かに暮らす』ことではないでしょうか



さて、この研修報告を読んでもらっている方々はこの言葉にどういう感想を持たれるでしょうか？舞鶴市の人口は約8万4千人で西脇市の2倍の規模であるが、ここに書かれている言葉は我々西脇にも当てはまると思う。

議会報告会等では、西脇は生活面の利便性が低下傾向にあり、企業誘致や都市インフラ整備を求める市民の声が多い。自治体としての財政基盤、都市基盤の充実はどの自治体でも共通の課題であるが、精神面では市民の参画と協働を促し、『心豊かに暮らせる』まちづくりを進めて行く必要がある。私は、西脇は昔から住み続けている人口比率が高く、これを進める上での市民のポテンシャルは、高いと考えている。

西脇の10年後、20年後の将来像について、市民と意識を共有しながら地方分権や地方創生など時代の変革を乗り越えていこうという気概を新たにした研修であった。

以上